「家がいいね」第255号

いせ在宅医療クリニック　広報月刊紙

2025.8.4

→故郷（郡上八幡）盆踊り　（げんげんばらばらの一節）

げんげんばらばら何事じゃ
親も無いが子も無いが
一人貰うた男の子
鷹に取られて今日七日
七日と思えば四十九日
四十九日の墓まいり
叔母所へ一寸寄りて
羽織と袴を貸しとくれ
有るもの無いとて貸せなんだ
おっぱら立ちや腹立ちや
腹立ち井川へ水汲みに
上ではとんびがつつくやら
下ではからすがつつくやら
助けておくれよ長兵衛さん
助けてあげるが何くれる
千でも万でも上げまする

死ぬことを、皆さん忘れていませんか？

お盆や彼岸や正月、里帰りするように先祖様も帰還される。その方々とどのように別れたのか、記憶はあるでしょうか。あるいは先祖の話を実際にしますか。死別の記憶や追憶が多いものです。

戦後８０年の記憶も薄れ、先祖の死も考えない人も増えました。いまや葬儀も簡単に済ませます。

在宅では、看取りという体験を、個々の家族がします。初めてという体験になり、戸惑う感想を聞きます。困った時にネットやＳＮＳで調べても現場の智恵には結びつかないとも相談されます。

最も困ることは、どのような時間の流れと考えたらイイかと言う現実です。死にゆく道筋は長い流れ（日々をどう生き、逝く人にどう関わるか）にあるが、自らの思い通りにならない間合いです。

「こんなに長い介護になるとは」と自分の時間を調整することにヘトヘトになる一方で、症状変化が速くて、間に合わなかったという悔いも数多く耳にします。看取りは小さな変化が集まり、急な展開に見えても予測された限界が現れただけ、なのかもしれません。昔の人は、死にゆく人と共同の生活をしていたから、細かな変化でも体験できることだったのでしょう。「死に水をとる」とは飲み込むことの力もなくなった人の、くちびるを交替で湿らせ、死を身近で送る伝承だったのです。

孫の披露もここまで。

約３年前の２１７号から後ろ姿で猫と共に１歳の孫を登場させました。今や孫も４歳、１歳半の従妹を従え行動範囲を広げています。

人の顔や表情は、誰しも引き付ける力があるので、つい毎号登場させました。今後は孫に相好を崩すのは背景へ、大事な皆様の話題に転換します。

7月は孫ラッシュなので、

もう掲載限界と思いました。私の子は娘５人です。新孫は長女の第一子。三女第二子。四女第二子。右から順に賑やかな実家のありさまです。代わる代わる抱っこしていると、私自身が母の乳を含んだ光景をつい思い浮かべます。

×保険証→○資格確認証だそうです

８月になり確認が多く、スミマセン。

休診のお願い

お盆期間の外来の休診ですが、８月１３日（水）～１５日（金）ますます暑くなります。熱中症を避け、ご自愛を。

１０月２５日（土）休みます。

ise home care clinic
いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薗町高向 927
電話　0596-20-8104
ファクス　0596-20-8105
メール　homecare@kr.tcp-ip.or.jp
https://isezaitaku.com

→バックナンバ閲覧可